

歯医者さんのレントゲン



ー口腔内全体のレントゲン・パノラマレントゲンー

歯科医院で撮影するレントゲンには大きく分けて2種類あります。
ひとつは歯や顎の骨などお口全体を写すパノラマレントゲン、もうひとつは歯を部分的に写すデンタルレントゲンです。

今回は、お口全体を診査する場合に撮影するパノラマレントゲンについてお話しします。

パノラマレントゲンは、上

とは

パノラマレントゲンは、上顎奥ト下顎奥ト

ガイ部の下あごまでの広範囲を1度に撮影することができます。もちろん上下の歯もすべて写ります。

- ① 虫歯の有無
 - ② 歯周病の進行具合
 - ③ 親知らずの状態
 - ④ 顎の骨の中にある病気
 - ⑤ 歯科の治療歴
 - ⑥ かぶせ物の状態
 - ⑦ 根の状態
 - ⑧ 歯の数の異常
 - ⑨ 顎関節の状態
 - ⑩ 上顎洞、副鼻腔の状態
 - ⑪ インプラントの状態
 - ⑫ 歯石の付き具合
- などたくさんさんの情報を得ることが出来ます。西東京生協歯科では主に初診時にこのパノラマレントゲンの撮影を行います。が、メンテナンス期間に入った患者さんでも2年に1度程度の撮影を提案させていただきます。
- 期間が空けばメンテナンスをしていても表面からではわからない変化が起こっている場合があるからです。以前の

えがお



編集・発行
【年4回季刊紙】

西東京生協歯科
〒202-0001
西東京市
ひばりが丘
2-6-29
Tel :
042-439-0071
fax :
042-439-0085

診療内容
かかりつけ歯科医
小児歯科
訪問歯科
歯科口腔外科



えがおはこちらから
HPでも見られます!



パノラマ撮影の様子

レントゲンと比較し、虫歯はないか歯周病で骨が下がっていないかなど細かく歯科医師が診察します。また、歯科衛生士も、レントゲンで確認しながら、歯茎の隠れている部分の歯石取りを行います。

放射線量は

どのくらい?

パノラマレントゲンは有効ではあるけれど、放射線量がかと心配という方もいらっしゃると思います。

パノラマレントゲンの放射線量については、欧州委員会のガイドラインでは約0.038〜0.03ミリシーベルト、日本ではイギリス、フランス、オランダなどと同程度

度の0.01ミリシーベルトと推定されています。この数値は自然放射線と比較するとわかりやすいかと思えます。私たちは宇宙や大地、空気や食物から微量の放射線を受けています。これを自然放射線と言います。私たちが年間被ばくする自然放射線量は日本では平均で約2.1ミリシーベルトと言われています。

パノラマレントゲンはその200分の1程度となります。東京からニューヨーク間を飛行機で往復する際の被ばく量は約0.2ミリシーベルトです。さらに撮影時には防護エプロンを着用するのでさらに被ばく量は減ります。

さいごに

西東京生協歯科では、患者さんの負担が最小限になるように、そして的確な診断ができるようにレントゲンの撮影を行っています。撮影に関してご心配などございましたら、歯科医師、歯科衛生士までお声掛けください。

(西東京生協歯科・相川有紀子)
歯科衛生士



～連載＊私と民医連～



『東京の保健所には歯科衛生士が1人もいない時代があり、甘いお菓子のCMには子どもが使われていた。』

私の父は民医連で事務をしていました。母校・日本福祉大学の少くない先輩も民医連に就職していたこともあり、社会人1年目の私は、身近な人が民医連で働く背中を見て、ここなら自分もがんばれそうだと、都内の民医連事業所に就職しました。しかし、韓国留学のため5年で退職し、その6年後の2013年、西都保健生活協同組合に縁あって入職いたしました。早いもので、この6月で丸10年が経ちました。

学校の授業は、子ども達の歯の痛みで中断し、子どもの入れ歯も当たり前だった。そこで、民医連歯科で働く仲間と保護者は立ち上り、「お菓子のCMに子どもを使わないで」「保健所に歯科衛生士を配置して」と運動を繰り広げたというお話でした。

今は、子どもが出演するお菓子のCMも、入れ歯を使用している子どももほとんど見かけませんし、保険でできる歯科治療の範囲も少しずつですが、増えてきました。今、当たり前になってきていることはこうした取り組みがあったからなのだと知り、自分も仕事を通し、社会の役に立ちたいと思ったのを覚えています。

日本福祉大学元教授・故・近藤薫樹先生がこんな言葉を残しています。

『自然の春は太陽が呼ぶ
社会の春は人間が創る』

今、毎日のように人権が踏みにじられるような出来事が起き、弱音を吐きそうにもありませんが、社会の春を創るために足もとから一歩ずつ、歩んでいきたいです。

(西東京生協歯科・事務・猪股あかね)

ほっとひと息のコーナー



見頃を迎えるはなみずき公園のバラ

西東京生協歯科の程近く、住宅街の道を歩けば5分もすると、「はなみずき公園」にたどりつきます。この公園は、四季折々様々な植物を楽しむことができます。紅梅とうぐいすのさえずりが早春を告げます。紅梅の花が盛りが過ぎると、また、公園内には地域の「西東京花の会」の皆さんがボランティアで整備するバラ園があり、約100品種ものバラがあり、5月頃から秋にかけて長い期間バラを鑑賞することができるとのことです。みなさんも一度足を運んでみてはどうでしょうか。

(西東京生協歯科・歯科技工士・平山幸治)

「保険でいい歯の歯科署名を」国会行動に行ってきました！

去る6月1日「保険でより良い歯科医療を求める請願署名」を国会へ提出してまいりました。この間、待合室や郵送などで患者さんや医療・福祉従事者の皆さん、さらに署名の新聞折込などで地域の皆さんにご協力いただき、738筆もの署名が集まりました。

『このような署名活動を行っていただきありがとうございます。』

年金生活の老夫婦です。…思いを込めた署名となりました！

『将来お世話になる歯科医療が安心して受けられますように！』

『署名折込み新聞に入っていました！賛同させていただきます！』

などの温かいメッセージも寄せていただきました。ごく短期間で多くの署名をお寄せいただき「保険で安心して歯の治療を受けたい」という声の切実さが伝わってくる思いでした。



当日は北は北海道から南は山口県まで、全日本民医連に加盟する歯科事業所で働く仲間40名が集まり、民医連全体で111,067筆、「保険で良い歯科医療を」全国連絡会全体では169,724筆の署名を提出し、地元選出議員に「紹介議員になってほしい」と要請すると共に、全日本民医連発行の『歯科酷書-第4弾』を示しながら、コロナ禍になり深刻化する歯科医療をめぐる実態を伝えました。衆議院41名、参議院16名に対して要請行動を行い、13名(立憲3、共産党8、れいわ1、沖縄の風1)が紹介議員になってくれました。改めて、私たちの声を代弁してくれる議員を増やすことは大切だと感じました。引き続き西東京生協歯科は、「保険でいい歯」の行動に取り組んでまいります。